

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 加藤大豊

見つけよう 奉仕の新生面
Discover a New World of Service

No. 45

1984-85年度 RI 会長 カルロス・カンセコ

第139回例会 昭和60年5月21日(火)晴

◇“我等の生業”

◇出席報告

会員 54名 出席31名
出席率 57.41 %
前回 5月14日 (修正出席率) 96.30 %

make up

橋本君(5/15東大阪), 林君(5/18守山), 堀江君(5/16大須), 小坂井君(5/9 瑞穂), 黒野君(5/15和合), 大谷君(5/16大須), 笹野君(5/15南), 武内君(5/17港), 松居君(5/16大須), 水野(眞)君(5/20中), 杉山君(5/15和合), 鈴木(正)君(5/15和合), 鈴木(猛)君(5/8名北), 和田君(5/16大須)

◇ビジター紹介 5名

◇ニコボックス

小坂井君(本日付をもって英和産業株式会社を、英和OA株式会社に商号を変更しましたので宜しく)、菅原君(15RC麻雀大会総会優勝おめでとうございました。太田さんの大健闘を祝し、足を引っぱりました。ごめんなさい)、太田君(15RC麻雀大会には、大変ご協力有難うございました。今日は欠席して済みません)、武内君(5月24日から3日間中京テレビ、ブリヂストン・レディスオープンが春日井カントリーで行なわれますので、皆様のお越しをお待ちしております)、竹内君(午前のロータリー情報委員会に出席できず、申しわけありません。水野委員長、有難うございました)、大谷君(本日のスピーカー平岩信三さんをご紹介します)

◇谷口幹事挨拶

- 5月26日(日)の名古屋大須RCの認証状伝達式に登録された方は、お忘れのないようお願い致します。
- 本日例会終了後、次年度の理事役員会を行いますので、次年度理事役員の方は2F橘の間にお集り下さい。
- 次回例会終了後、理事役員会を行います

ので、理事役員の方はお残り下さい。

◇菅原国際奉仕委員長報告

15RC合同事業になっております国際児童寄金、ユニセフの活動に対する寄金援助の依頼がきておりますので、皆様のご協力をお願い致します。6月1日P.M.14:00~15:00、名古屋国際センターホールにて、日本とフィリピンのシンポジウムが開催されます。ご出席希望の方は、事務局までお申し出下さい。

◇加藤大豊会長挨拶

韓国は1988年のソウル五輪へ向け、急ピッチで会場の新設や整備が続けられています。その一方では、日本に追いつけ、追いこせのスローガンのもとに、あらゆる分野で必死になって頑張っています。スポーツや文化でも負けてはならないと、政府もアメとムチを使い分けているようです。当メンバーの中に囲碁を打たれる方がお見えになりますが、昨年11月15日に終わった囲碁の名人戦でも、韓国の趙治勲名人が、5連覇という偉業を成し遂げました。彼はまだ28才。優勝賞金1800万円を手にしてニコリというところでしょうが、今回は7番勝負で、最初の3番に3連敗して角番に追いこまれたのですが、残り4つの対局を見事に勝ち、大記録を作りました。彼は昭和31年ソウルに生まれ、4才で碁を覚え、5才でアマの5段クラスの打ち手となりました。37年8月、6才の時に来日し、棋界の名門である木谷実門下の内弟子となり、その翌日、当時の林海峰本因坊(当時6段)と対戦、五子局の置碁ながら、これを中押し勝ちで破り、関係者の度胆を抜きました。彼は来日と同時に、東京韓国学院に入学しましたが、登校を拒否し、碁の勉強もサボっていました。この世界では初段になって、初めてプロ棋士の資格が得られますが、彼はその入段手合の予選を何度も滑りました。13才で入段した林海峰の史上最年少記録を破るのではと期待された彼が、10才で入段でき

なかった時には、治典も只の人だったのかという陰口を耳にし、姉からは、入段がだめならもう韓国に帰ろうと、涙ながらに諭されたそうです。それから彼は一念発起して“命がけで打つ”を信条とし、碁の勉強に励み、11才で入段という新記録を作りその後、彼は53年に大手合35連勝を達成して8段となり、55年に大竹9段から名人位を奪いました。58年には3連敗後4連勝して、藤沢棋聖から棋聖を奪い、文字通り棋界のナンバー1になりました。3連敗4連勝して名人位を死守した彼に、勝因は何ですか、と問いますと、「最初に3連敗した事です。」と事も無げに呟いたそうです。趙名人の異名は、“念力のチクン”と言われ、大逆転劇はお手のものです。しかし、その底流には、日本人に負けたくないという韓国人特有の精神力があったのではないのでしょうか。経済界でも韓国の追い上げは、急ピッチであります。オリンピック誘致合戦に負けた名古屋は、韓国に大きな力を与えたようです。

◆講演

“ほとけとこじき”

安城RC会員（元ぶんぶくちゃがま）

平岩 信三氏（紹介 大谷君）



「早乙女も、水が濁らざおかしかり」という川柳があります。早乙女というのは、田植えをする少女のことです。茜だすきに菅笠で、田植えをしますと、足で田の水をかきまわし、苗を植える為、当然水は濁るわけです。濁らなければ可笑しいわけですが、水が澄んでいますと奥にある“ほとけ”が水面に映え、可笑しかりという意味です。なんの変哲もないこの川柳にも深いわけがあるのです。

京都、奈良へ行かれても判るように、ご本尊は、いつも奥深いところに鎮座され、なかなか拝見できないものです。ご本尊様は、たいてい「如来様」です。阿弥如来、大日如来など仏様では位が一番上です。その次が菩薩です。観世音菩薩などというものです。R-Iの向笠広次会長は「人類はひとつ、世界中に友情の橋をかけよう。」と提唱されましたが、これはまさに菩薩道です。

昔、学校では歴代天皇を暗誦させられました。33代の推古天皇までの歴史・神話の書が「古事記」です。大安万呂が、天明天皇の勅により、稗田阿礼の誦習した帝記および先代の旧辞を撰録して和銅5年献上したものです。漢字で書かれたものです。この「古事記」を研究したのが、江戸中期の国学者本居宣長です。30年を費やして「古事記」を書きました。

古事記には、天地開闢のことが書かれ、天御中主神のことが書かれています。

BC288年。シナの楚に屈原という人がいた。楚の王族に生まれ、懷王を助けた人です。ところが、政敵の中傷によって失脚します。そのうちに懷王が無実をはらし、迎えにきてくれると思っていましたが、懷王は、隣りの秦の国へ親善に出かけた時、謀略にあって獄につながれ、憤死しました。懷王を待っていた屈原は、もはやこれまでと、身を投げようとしますと、漁夫が来て「滄浪の水が濁っているならば、足を洗えばいいのではないか、何もそんなに死に急ぐことはない。」といさめます。しかし、屈原は「私のふるさととは楚の国しかなく、私の君は懷王しかない。」と言って泊羅の水に身を投げ、死んでしまいました。この屈原の入水自殺を知るや、楚の国の人々は軒端に菖蒲をつらし、喪に服したと言います。

それから1千～2千年経過して日本に伝わった風習が、端午の節句です。屈原が入水したのが5月5日で、楚の国では喪に服しましたが、日本では、お祝いごととなりました。

男の子のある家では、甲冑、軍人形、鯉のぼりを飾り、その出世を祝いますが、起原は屈原の故事なのです。

そこで川柳に戻りますが、屈原も水が濁らざ、世の中が乱れていなくなったなら、楽しい人生を送れたということです。川柳の外側が「ばれ」、内側が「にげ」と言います。「ばれ」と「にげ」がとけこんだのが秀句といえます。

（文責 大谷）

◆住所変更のお知らせ

会員 三輪 康 君

自宅 中村区名駅南1丁目5-5

TEL 541-3483

◆社名変更のお知らせ

会員 小坂井 盛雄 君

新社名 英和OA株式会社

◆例会変更のお知らせ

名古屋守山RC 6/15(土) F.S.M.の為、円庄にてP.M.18:00より

◆次回例会（5月28日）

“友愛の日”の為、講演はございません。